

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：田主丸・未来創造会議

活動地域：福岡県久留米市 田主丸町

活動におけるテーマ

『人々の心と暮らしを支える水縄（耳納）連山
SDG s』

本事業への関わり：2年目

活動団体紹介 田主丸・未来創造会議

「水縄（耳納）連山SDGs」

専門機関
による実証

農家との
連携

田主丸らしい循環経済

全国生産一のみかん苗木
カラタチ再利用に向けた挑戦

住民と育む 付加価値ある森林資源

かっぱの森 Jークレジット
個人レベルの参加意識向上

生きがいをもたらす 暮らし／文化

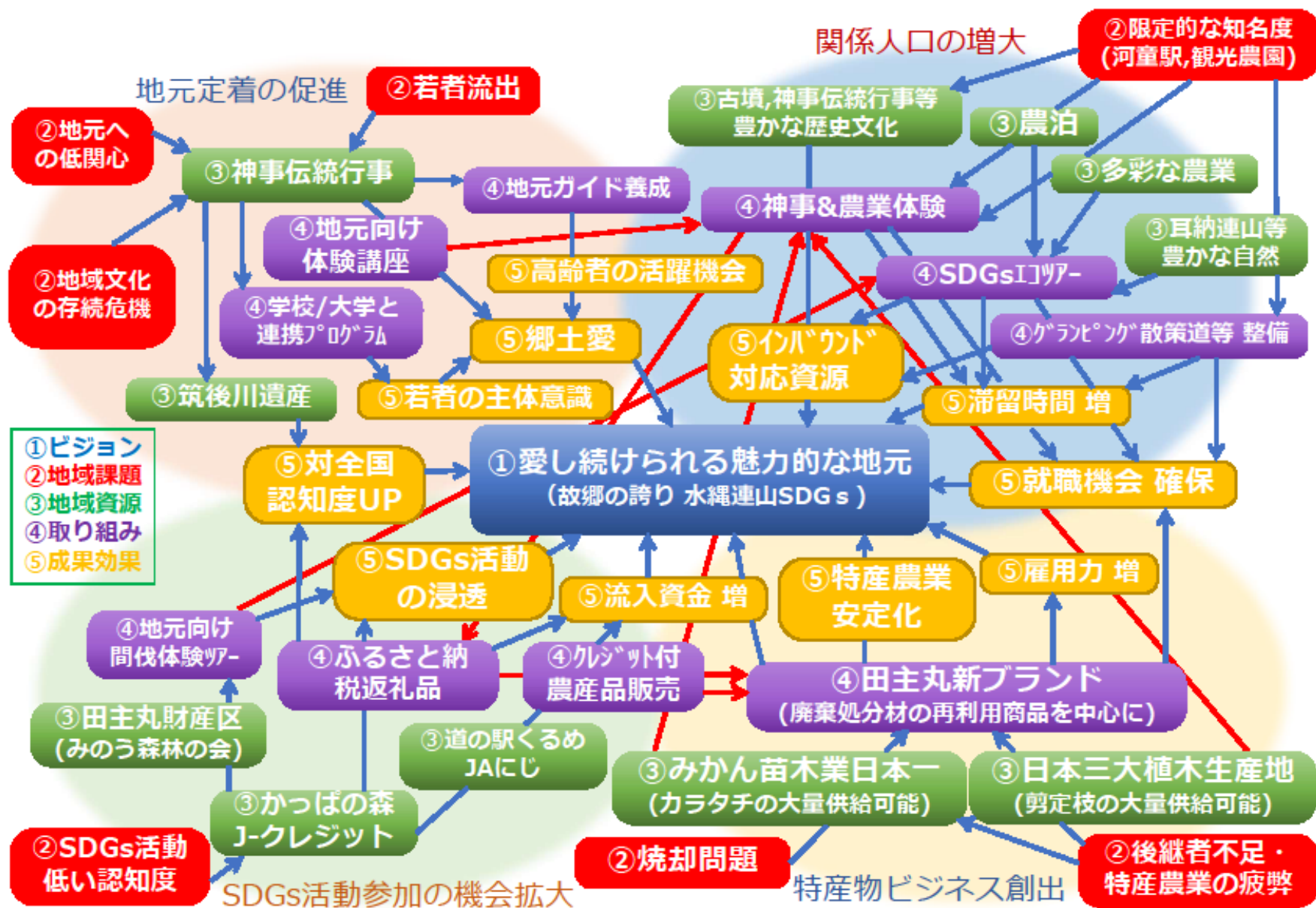
暮らし／生業の根っこ
神事・伝統行事の持続性

企業との
連携

若い世代
の巻き込み

田主丸のシンボル＝水縄(耳納) 連山に根差した
多彩な農業とその暮らしに「愛着」・「誇り」を持つ

現時点の地域版マンドラ



活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して
解決したい地域の課題

- 1) 伐採カラタチ再利用
- 2) 森林の価値向上(J-クレジット等の販売拡大)
- 3) 農泊と連携した神事・伝統行事の保存活用



地域のありたい未来

水縄（耳納）連山と筑後川が織りなす「環境」と農業中心の「産業」に愛着を感じ、住み続けたいとなる「暮らし」。



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

水縄（耳納）連山や筑後川といった豊かな「自然環境」と、柑橘系果樹苗木など特徴的な農業を中心とする「地域産業」といった地域資源を活かし、活気ある持続可能性社会を目指す。最終的には、地域における課題を住民一人ひとりが考えてお互いに議論し連携できる中心的な場とする。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 屏風の如き景観と古墳を多数抱く水縄（耳納）連山、条里制の痕跡も残る広い田地、豊かな筑後川
- ・ 全国の8割を占める柑橘系果樹苗木生産、日本三大植木生産地と呼ばれる植木苗木業
- ・ 資生堂ブランド（ヘルス&ビューティ）、福岡県緑化センターにある「緑の機能性研究所」との連携
- ・ かつぱの森J-クレジットなど、水縄（耳納）連山の豊かな森林空間保全を推進する田主丸財産区
- ・ 地元で維持する40以上の神社の神事と農家民泊のコラボ、久留米市が推進する「筑後川遺産」への登録

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ

ステークホルダー

←新たに加わってほしいSH

- ・企業や専門の研究機関、機械メーカー
- ・金融、観光、製造などの業界団体
- ・SDGsに関心がある企業(JT)
- ・国や県などの行政機関

←想定している課題・阻害要因

- ・**現在の取組と課題の掘り起しの両立**
→プロジェクト管理とニーズの把握
- ・**地元から理解を得る成果の出し方**
→解決模索型、実現型テーマ解決には継続が必要
- ・**運営体制の充実**
→受け身的なステークホルダーの意識改善



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

水縄（耳納）連山と筑後川が織りなす「環境」と農業中心の「産業」に愛着を感じ、住み続けたいとなる「暮らし」。

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

●地域課題を《きめ細かく》拾い上げ《続ける》組織体制の充実・強化

⇒小学校区（地域コミュニティ組織）単位で課題の拾い上げる仕組みづくり

●活動の実績や成果を発信し、域内外への浸透と行動変容を促進

⇒マスメディアとの連携、SNS等による主体的発信

⇒ワークショップや啓発講演会の開催等

●会議体を人的・技術的・金銭的に支える企業・団体との関係強化

⇒地域異業種交流会参加企業・団体、一般社団法人久留米銀行協会

⇒研究機関や商品開発委託事業者（地元企業）との連携

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- ・実証実験に基づく、**カラタチの伐採作業効率化のための粉砕機開発の検討**
- ・かっぱの森J-クレジットに連動した森林価値の向上、クラウドファンディングの活用、**地域報告会での住民へのアピール、J-クレジット付き農産物の販売**
- ・神事伝統行事と農泊の体験プログラム、農泊と益生田市民農園とのコラボ事業、**農泊に関する中長期的な活動計画の策定**

年間スケジュール

